

# 議会活性化特別委員会会議録

- 1 日 時 平成30年6月19日(火)  
14時35分開会 15時45分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：原 紀夫  
副委員長：桜井崇裕  
委 員：北村光明、高橋政悦、佐藤幸一、安田 薫  
議 長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員 なし
- 6 議 件  
(1) 議員定数、議員報酬について
- 7 会議録 別紙のとおり

(1) 議員定数、議員報酬について

委員長（原紀夫）：本会議・全員協議会終了後お疲れのことだと思うが、議会活性化特別委員会を開会する。お手元に「議会報告会と町民との意見交換会」の記録及びアンケート結果を配付している。5月29・30日に清水地区と御影地区で「議会報告会と町民との意見交換会」を開会し、町議会議員の定数・報酬について、町民から意見を聞かせていただいた。文書を読まれてわかるとおり清水地区においては反対の意見、賛同の意見等々があった。御影地区では賛同するという意見があった。また、議員報酬を上げるということであれば議員定数を減らすべきだという意見もあった。アンケートの集計をした結果、議員定数は現在のままというのが約6割、現在より減らすというのが約3割という状況が出ている。議員報酬については現在のままというのが約4割、試算で示した額よりさらに上げるべきだというのが約3割、試算の額が約2割ということになっている。「議会報告会と町民との意見交換会」で町民の意見を聞いたが、議員定数・議員報酬について、これまで議会活性化特別委員会ですらいろいろ話し合いをしてまとめてきているが、本日の委員会の中でまとめのとおりに進めていくのか、あるいはいろいろな意見を拝聴したので考え直して協議をしたほうがいいのか。どちらにしても具体的な進め方を含めて、この中で検討をお願いしたい。清水地区と御影地区の両所でアンケート調査を行ったし、昨日の一般質問で特別職報酬等については町長の考え方もお尋ねをしたが、最後に11月段階までにまとめたいのでそういう思いがあるのであればという話もしてお願いをしてある。まず、町民の意見を一回聞いた段階の現状において、先ほど言ったように今のまま続けて結論を早期に導き出して11月までにまとめるべきと考えるか。極端な言い方をすると、反対が半分近くいるのであれば現行のまま手をつけずにこのまま進めたらという意見がもしあるとすれば、そういうことを含めて委員の皆さんの考え方を伺いたい。

桜井委員：議会報告会でテーマを持って、参加していただいた方にお示しをしているいろいろな意見を聴取した。アンケートも本音の部分で書いていただいたところもあると思う。しかしながら、もう少し町民に拡大して何らかの形でアンケート的なものできないかという思いがある。せっかくの議会活性化特別委員会だからもう少し拡大して広い範囲で町民の意見を聞いたほうがいい。

高橋委員：意見交換会での話の中で町民が重きを置いていた内容は、どうしても定数が絡んでいた意見が多かったと思う。そのことに関して、議員側からはこんな仕事もやっていると話を納得してくれた方もいると思うがそうでない方も多い。まず定数に関して、定数を減らす方向に持つていくのではないが、もう少し町民サイドに立った見方で、町民が納得できるような検討過程をこの委員会ですらつくっていく。その上で、議員報酬については今回の一般質問では財政のほうはほぼいい感じであるという町長の発言もあったし、議員や特別職の報酬が上がるということも可能な段階に来ているということであれば、町民に対して、報酬を上げていく理由をしっかりとつくっていくのがいいのではないかと。

安田委員：議会報告会での意見としては、やはり定数を下げて報酬を上げるという意見が多かったかと思う。定数に関しては議会活性化特別委員会ではほとんど全員が13人でいいと思っているので、定数を下げることにしてもうちょっと議論をして、報酬を上げて定数を下げれば議員個々の活動はボリュームが多くなるがそれが可能であればそれでもいいかという気はする。

佐藤委員：ここまで来て町民の皆さんの声を吸い上げることがちょっと足りない気がする。何か吸い上げる方法はないか少し検討していただきたい。

北村委員：やはり町民との話し合う場をもっと続けたほうがいいのではないかと。清水地区の状況と御影地区の状況がちょっと違っているのは何なのかと考えてきた。やはり前段での議会報告会に関して報告が短すぎるということだと、議会報告会に対する疑問が出なかった。そういう中で、次に議員定数と報酬の話になったので、特に清水地区では報酬を上げるなら定数を減らした方がよいという意見もあり、議会がたくさん活動しているという認識を持ちきれていない感じの中で感情的な発言もあったかと思う。もう少し町民の意見をもらうということだと、例えば議会はどうかあるべきなのかについて、議会・議員と町民との意識のずれを埋めるようなことをしながら意見を聴取していく。議員になってみての苦労も知ってもらう必要があるのかかと思っている。ワールドカフェみたいなことなど町民の意見を聞く場として工夫もしようと思った。

委員長：北村委員が言われたもっと町民の意見を聞くという分については、私は期限を切って11月まで

にということをやつて話をしている。それまでに町民を誘ったりこっちから出向いたりいろいろ方法があるだろうが、そういう活動をやった方がいいという意見か。例えば、一同に会してこの前の議会報告会のようなかたちなのか、小さい輪で何度もやるということなのか、どう考えているのか。

北村委員：切り口については、議論をするテーマとして、定数と報酬ということではなくて、議会活性化をするということで考えてきたが、皆さん方の意見も聞きたい。我々はこういう議論をしてきて、こういう方向を目指してきたということを投げかけながら双方向的な意見を交わすということをやってみてはいかがかと思う。

委員長：この意見について、ほかの委員の皆さんはどう考えるか。

桜井委員：先ほど委員長が言われたように、11月をある程度の目処にするということになると限られた期間しかない。議会も2回だけしかない中で、議会活性化特別委員会において定数・報酬を町民にお示しする意味でというか、しっかり定数を維持しながら報酬を上げるという結論に達するのであれば、町民の意見をまずしっかりと聞く必要がある、その上で特別職報酬等審議会への諮問ということになるが、逆算をしていくと、ある程度広く集めるということになるとなかなか難しい部分がある。また、そういう機会を持つのも大事だと思うが、集まっても言える人と言えない人がいる。議会報告会でも同じようなこともあったかと思う。幅広い年齢層の意見を少しでも聴取するという意味では短期間のうちにそんなに大きな項目でなくてもいいからアンケートのようなものがある程度の数お配りして幅広く早急に集める。そういう方向がまずいいのではないか。

委員長：今回町民の意見を聴取した結果、先ほど説明したようなかたちが出ている。これを受けて北村委員が言われるのは、期間が長ければ、清水地区・御影地区で1か所ずつではなく、いろいろな分野で回数やるということなので、それはまさしく理想だし人が来ればいいが、果たして来るのか。またやるのかという意見がもっと出てくるだろうという気がする。町民の幅広い意見を聞かないと駄目ということになると、アンケート調査をどうするかたちで出して意見を求めるかということが重要。浦幌町や音更町のアンケート調査結果ややり方についていろいろと私なりに調べている。アンケートについては各町内会長に頼んで全町民に配付してという話もあったが、一部の農事組合から大変であるので対応できないという話も聞いたりしている。私の手元に音更町のアンケート調査があるが、非常にきめ細かい設問をしており多くの町民の意見を聞いてその質問の理由付け等についても書いてもらったりしている。そういうことができれば、今北村委員が言われていたようなことも文字化されて出てくるのではないか。どちらがいいかは明確に言い切れないが、どうか。このままでは駄目だということは皆さん一致していると思う。その後幅広く町民の意見をどうやって聞く方法について、北村委員が今言ったような方法とアンケートという方法が出ているが、どちらにするか。

北村委員：どちらにするということではないが、今全国的にそんなに多くはないが、自治体における住民投票制度を検討している所がある。いわゆる住民投票でこれがいいか悪いかみたいな制度が必要だという議論をしている所もある。いずれにしても議会なり議員たちが何を考えているかというアウトプットをきちんとしない中で、アンケートを取るにしても意見を聞くにしても、今の状況の中で判断を求めるといふやり方はちょっとどうなるかわからないという要素が強いのではないか。

委員長：言われることはわかるが、先ほど桜井委員が言われたように長い期間があるわけではないのでその中でしっかりとした意見を受けて議会の中に反映したい。今北村委員が言うように、全議員がしっかりと答えられるかとなると難しい面も相当あるのではないかと思う。今の段階でと言われるとどうしようかと委員長としては悩み多き課題である。

北村委員：議会活性化特別委員会において報酬のことを議論してきたが、いずれ町民の意見を聞かなくてはいけないという思いでやってきたと思う。今回の「議会報告会と町民との意見交換会」においては、このテーマを議論してもらったときのこちらからの案という部分でいくと、議員のなり手がいないというところが表に出てきて、議員報酬を上げるか上げないみたいな話になってしまった気がする。議員のなり手の問題で考えていくと、報酬だけの問題だけではないだろうという意見が出てくるのは当然だと思う。だから、もう少し状況的にこちら側がこうだというものを出さないとだめではないか。

委員長：議会としてこれだというものを出さないと駄目だということだが、ほかの委員の考えも聞かせてほしい。

安田委員：今回のアンケート調査の結果として29名出ている。7月15日付けの広報紙でアンケートを出せば全戸に行くが、その回収方法はいろいろあると思う。手っ取り早く、回収を上手くやればあまりお金をかけないである程度の数は集まるのかと思う。

委員長：まだ決めていないが、アンケート調査をするにしても予算がない。仮に全戸に向けてアンケート調査をするとなると4,000戸あるので、回収を含めてどういう手続きをするかはわからないが、安い金額では絶対にできないと思う。

安田委員：お知らせ版と一緒に広報にはさんでしまえば印刷代だけで、予算的にはできるのでは。

委員長：どこの町村もアンケートをやって、回収率はそんなに高いものではない。町民の多くの方に出した結果、こういう考えが多いという一つの目安が総体の結果として出てくるはず。他にはあるか。

高橋委員：まさしく北村委員の言うとおりでと思う。こちらの思惑が向こうに伝わっていない。ただ単に今流行りの議員のなり手不足が全面に出てしまって、結果うちの議会が出した中身では議員のなり手が増えるわけがないだろうというのが町民の思い。だから、上げるならもっと上げて、その代わり定数を下げてほしいという結論になっている。多くの方がそう思っているのは間違いない。議員の定数はこのままで、報酬を上げた理由がまた他の町と比較で上げるなんて、これは全くの理由にはなっていない。根拠にはなっているが理由にはならない。また、今回特別職の給料を上げたら、あの方式でいくと今までよりも議員の報酬が上がることになる。町長に対する比率でやっているのだから。その辺の整合性も取れていないので、その辺も整理する必要がある。それから、実際に時間があればアンケートで返って来たものを分析できるが、その期間がない。この結果を出すのに一番いいのは、大変かもしれないが各種団体、事業所に申し入れてそこで話を聞いてくる。こちら側のこういう感覚も伝えることができ、アンケートの回収率と同じくらいの効果があるのではないかといい気がする。団体に行くとなれば仕事が終わった遅い時間になるだろうけれども、そのくらいのことをやっていかないと。その辺も加味してそういう手法だと予算もかからない、議員それぞれの手間だけで済むかという気もする。

委員長：いろいろな方法について、皆さんから意見として出していただいているが他にないか。

北村委員：今回のアンケートのQ. 10のところ清水町議会議員に期待することは何かの回答の集計が出ているが、町政の監視機能、具体的な政策の提言、町民との対話の3つが多い。まさに議会がやるべき課題はここにある意味では表れていると思う。町民の認識があるということで行くと、きちんと話をすれば議会の状況なり町民との役割のところでも合意点というか、納得できる話ができるのではないかと。そういう意味では土俵があるのではないかと。この間の議会報告会が終わって自分なりに考えたことは、議会活性化特別委員会の議論の中から広報広聴常任委員会が設置されて、この委員会は単に議会だよりの発行だけでなく、広聴ということなので町民の意見を聞くという任務もあるので、広報広聴委員会の活動として何かできることはないのかという観点でも考えられる。委員会が単独で主催することについて全員協議会の中で承認が得られるか分からない部分もあるが、意見を広聴していくという活動範囲を広げていくことも含めて考えると、そういった取り組みについて一つの試行策としてやってみてもいいのではないかと。その中の一つとして、議会についてどう思うのか、定数と報酬の問題などが出てきてもいい。議会・議員に対して何を期待するのかという辺から議論しないと駄目ではないか。

佐藤委員：議会報告会では、町政について大きな期待を持っている人が来たと思う。そういった中で、まるっきり出てきていない町民の声を吸い上げたいという気持ちも持っている。それには全戸配付のアンケートが一番いいと思う。町政に期待をしていない人もこういうアンケートが来たということでもんでもないいい案が出てくる可能性もあると思う。町政に関係していない人の声を聞きたいという思いがある。

安田委員：先ほど言った広報紙に入れる方法があるが、回収の方法はちょっとわからない。

委員長：議会報告会に集まった方の顔ぶれを見ると、各団体に案内を出しており建設業界などの団体から来てくれた方が多い。その部分を差し引くと相当減るはず。団体から来てくれた人は発言を控えている人が多い。だから果たしてどうなのか。最初に我々議会が団体といろいろ話をしたのもそういうかたちでスタートしているが、アンケートは一度もやっていない。普段全く議会に対して意見を言わない人であってもアンケートであれば書きたいことも書くだろうし、意見も言うだろうというのは相当あるはず。それから見るとやはりアンケートなのかということが以前からあり、いろいろ皆さんに提案をしている。どうするか。

桜井委員：議会報告会に来てくれた方には議会活性化特別委員会における報酬額の試算や、問いかけをしたということは伝わっているが、来てくれない人にはそれは伝わっていない。

委員長：大半の町民には伝わっていないということ。

桜井委員：だから議会広報でも何でもいからまずはお示しをして、その意見を集約する。いろいろな意見を聞かせてくださいといったものでないと。農村部であれば連合会の役員が対応してくれると思う

が時期的にはなかなか難しい。1人や2人しか対応してくれないということになりかねないところもある。本当にわからないから来て説明してほしいというところがあればどんどん行くべきだと思うが、それだけの期間があるのか。

加来議長：議会報告会でアンケートをいただき、あの場で発言した人の考えも含まれているとは思いますが、全体のアンケート結果を見ると、定数については現在のままでよいというのが一番多い。報酬については、試算した額と試算額より上げるべきだという意見を合わせると15人ということで、半分以上にはなる。そういうことを基本的に考えると、今皆さんの意見も聞いていて、もうちょっと町民との意見交換をした上で、自分らの意見をしっかり持った上で意見を聞くという話が多かったような気がする。その方法としてアンケートも一つだと思うが、確かに多くの人からの意見を公平に取ったほうが町民に対する理由付けにはなると思う。時間的にいろいろなことで大変難しいということであれば、案内を出した団体からは代表の方などに来ていただいているが、そういう方をお願いして説明がてら出向いてアンケート調査をしていく。大変だと思うがある程度の数をやれば方向が見えてくるのではないかと思う。

委員長：6名の委員が手分けをしてそれぞれの団体にアウトになり、2人ずつセットを組むかなどのかたちは別だが、説明をしてアンケートを求めて意見を聞いてくるということについて可能かどうか。皆さん大丈夫か。相当な数がある。逆にあそこには聞いたけど我々には聞いていないという意見が過去にもあり必ず出てくる。そうすると、幅広くとなるとアンケートが一番問題なくできるのか。

加来議長：うちから聞いてくれなかったとかいろいろなことは出てくるかもしれないが、団体の中からくじ引きで引いてやりましたとか、できるだけ公平に、偏った意見ではないという理由をつけたアンケートの取り方をすればどうか。例えば全部で100団体の場合、そのうちの10団体にこういうふうに聞いたというやり方も考えてもいいのではないか。

委員長：それは、うちの委員会、例えば団体が40あるとすればそのうちの10だけ抽出する。その団体に役員など何人かに来てもらってということか。

加来議長：やり方としては、先ほど高橋委員が言っていた点もあると思うが、例えば商工青年部などと以前に意見交換会をしたことがある。特別委員会において、そのような方法で団体にアウト意見交換会をする時間を設けていただきその中でアンケートをもらおう。委員会としては、議会の役割はこうであるとの説明もしながらアンケートをいただく。アウト団体をどれだけにするのかの議論もあるが、そういう方法も一つある。

委員長：それはバランスよくしないと。偏るとまずい。そうすると例えば先ほど言った農事組合の連合組織について清水地区一つとか御影一つというかたちにするなどあるが。

加来議長：皆さんがそういう方法がいいと言うならよいのでは。皆さんで方法を協議してほしい。

委員長：議論を深めるのは大いに結構だが、大体意見は2つ。全町になるかは別だがアンケート調査をやるか、こちらからアウト行って団体と懇談をしてその都度アンケートをもらってくるという方法がある。どちらにするかを決めたい。いかがか。

安田委員：ちょっと予算はかかるが、全町民に広報紙と一緒に入れるか、早くやるのだったら新聞に折り込みしてもらえばできるので、全戸に聞いたほうがよい。

佐藤局長：予算がない。

高橋委員：安田委員の言った話で、回収をどうするのかの案もなく、ただ投げっぱなしという話にはならない。だから、方法といたらおのずと決まってくると思う。

佐藤委員：全町民の声を拾うとなったらアンケートが一番かと思う。

委員長：今事務局が言っていたように予算がない。ゼロではないが少しくらいは使えるがその程度だろうと思う。北村委員が先ほど言ったことも含めて2つのうち1つということになったらどちらになるか。アンケートにするか、アウト意見聴取するか。

北村委員：アウトしていくほうがよい。

桜井委員：どちらにしても手分けをして回収を含めて行くということになる。それぞれある程度、お話し合いをしたいというところがあればやぶさかではないというスタンスの中で、それだけの期間があるかどうか。

委員長：私はそこを心配している。それぞれ都合が悪いということになると全く進まなくなる。皆さんの意見も聞かなくてはならない。1日集中して皆まとめてやるのは絶対に不可能。

桜井委員：この間の勝毎に記事が出ていた、あまり意見を聴取しないで直接、特別職報酬等審議会に諮問をして決定した所もある。そういう意味合いでは、清水町はまだ聴取をしているほう。

委員長：私もこの間記者に1時間半くらい取材を受けたが、全く町民に向けて発信をほとんどしないで決

めたりしているところもある。それから見ると、記者にも褒められた。清水町はそういう面からみたら本当によくやっていると思うという話だった。それでもいろいろな厳しい意見が出るのは当然だろう。桜井議員の言われたことは、どちらでもいいけれども出向いて行ってやるという話をされたのか。

桜井委員：委員長が言われたように1人で行くか2人組など手分けをして行くかという部分。

委員長：例えば町民の20%なり、30%なりを含めたアンケート調査をつかって、町内会長にお願いをして回収してもらうということをやるとなるとそれはどういう考えになるか。

桜井委員：先程議長が言われたように抜粋するのかそれは皆さんとの議論だと思う。町内会だとか団体に出向いてアンケートをしたい、声を聞かせてほしいということをお願いして、ある程度配ってもらって回収してもらうということ。

委員長：団体の数はどれくらいに絞れば良いと思うか。団体となると全体で主な数といったらどれくらいになるか事務局で押さえているか。

佐藤局長：委員長が言われている議会報告会のときに案内した団体数であれば49。

委員長：本町議会が案内しているのは主な団体ということになる。この団体全部やるというのは不可能。2つ・3つ団体をまとめて来てということになるのか。

高橋委員：別に皆雁首をそろえていなくてもいい。議員12人いるのだから、12等分して1人200人ずつ集めてほしいというだけでいいのではないか。議員は選挙に出て、それぞれ皆300以上ずつ票をもらっている。だったら自分の後ろに300人いるのだから、つまるところ、その人たちに聞いてほしいという話。皆1人ずつ動けばいい。団体として動かなくてもいい。ただ結果を持ってくればいだけ。

委員長：自分の支持者が誰か分からない人はどうするのか。

高橋委員：支持者が云々ではなくて間違いなく自分の後ろには300人ずついるのだから、そう思う人たちに自分で1人ずつ聞いてまわればい。その1人が団体の中だったら皆集まってほしいと。そうしたら議員が動いていると町民にも分かるし、そのぐらいのことをやらないとなんだそれという話にしかない。

委員長：今の高橋委員の意見に対して意見があればお願いしたい。

安田委員：私は反対。

委員長：今言われているのは全議員がということ。

安田委員：それはちょっと無理ではないか。

高橋委員：無理な理由も言ってほしい。

安田委員：無理な理由よりも、私の考え方としてはそうするよりも全戸に配付して回収を皆で手分けをしてやったほうがいいということで、反対している。

佐藤委員：先ほどから申し上げているようにアンケートがよい。

安田委員：高橋委員の意見に対してはどうか。

佐藤委員：私の意見はアンケートが一番。

委員長：今は議員皆で手分けをしてやるということについてどうかと聞いている。

佐藤委員：それには反対で、やり方はアンケートがいいと思っている。

委員長：回収方法は。

安田委員：方法はこれから考える。

北村委員：100枚持って行ってそれを全部回収するというのはなかなか困難かと思う。偏る可能性もある。実際のそれぞれが取った票の分をちゃんと回収できるかといったら半分もいかないと思う。それを特定すること自体も難しい状況もある。高橋議員の案についてはあまり能力的には行き着かない。

桜井委員：全戸に配ることについては予算がないということなのでそれは不可能。高橋委員の言うのはそれぐらいの気構えを持って意見を聴取するようなものでなかったら町民は納得しないという部分があるかと思う。それがいいか悪いかは別として、もうちょっと議論すべき。

委員長：今高橋委員が言われることが良しとなったら、ここの中ではなく全議員でやるということをやられているので全員協議会で話をする必要がある。全員協議会で話をしたときに特別委員会委員以外の皆さんが同意してくれるかとなると難しいのではないかという気がしてならない。全員協議会に諮って皆に手分けして自分の票数ぐらいの戸数を皆アンケートで集めてきてほしいといったときにどういう反応を示すかとなると相当厳しい意見が出てきそうな気がするがどうか。

桜井委員：議会報告会もやって、全員にこの試算をお示しして特別委員会としてこういう結論を出して町民に意見を聞こうということになっているので、知らなかったとか協力できないということにはなら

ないと思う。

委員長：休憩する。

【休憩 15：24】

【再開 15：36】

委員長：いろいろな意見を聞いた。第一にアンケート調査をするということについても回収を含めてしっかりした体制ができなければ全く不可能だろうと。予算がないということも含めてとなれば議員自らの足で稼いでいただいて町民に意見を聞くという方法はどうかという意見も出ている。それでいいか。

北村委員：やってみる価値はあると思う。それで結論が出るかどうかはわからないがやってみてはいいと思う。

佐藤委員：賛成だが、全町民から果たしてアンケートが取れるかどうか心配している。

委員長：それは取れない。今言っているかたちでは全町民からは取れない。全町民が買い物や人の輪の中に全員来るならいいけれども、それは絶対に無理。

安田委員：賛成する。全員協議会に諮ってほしい。

桜井委員：賛成。

委員長：私も賛成する。そのように決定してよいか。

(よろしいの声あり)

委員長：そのように決定するが、それを全員協議会にいずれ諮るので、その際に反対をするような意見があったら説得するような努力をお願いします。

アンケートの内容等々は委員長と事務局で腹案を作ってその後に検討したいと思うがいかがか。

(よろしいの声あり)

委員長：私と副委員長と事務局と議長で相談をしてアンケート様式を考える。それを次回の委員会でお示しし、納得していただけるのであれば、全員協議会に諮りたいということで進める。今日はこの程度で終わりたい。議会活性化特別委員会を終了する。